



家庭連合人の詩



天 詩 人

妹へ

辛く 悲しい思いを抱えたあなたに
面と向かっては 何も言ってあげられないから
こうして 思いをつづることにする
この言葉が ほんの少しでも
あなたの力になればと願う

今回 あなたが失うものは
あまりにも大きいし
あなたの負う 痛み苦しみは
僕には想像もできない

ただ あなたは
あなたを愛する人々の思いを
改めて 実感したことだろう

あなたの周りには
あなたを愛する 家族がいる
夫がいる 両家の両親がいる
姉がいる 妹がいる
僕の娘たちもいる
その他にも あなたのことを心配し
あなたのことを愛する 多くの人々がいる

そしてもちろん あなたを誰よりも愛する
天の父母様と真の父母様が
あなたのそばにいる

やがて 絶望の淵にも 希望の光が射す
未来があなたを待っている
新しい生命があなたを待っている

未来を信じて 希望を絶やさず
これからも 力強く生きてほしい

近い将来 あなたは新しい生命と
喜びの涙で 対面することになる
僕はそう確信し
これからも家族ぐるみで
ほんの少しでも あなたの力になりたい

やがて 絶望の淵にも 希望の光が射す
未来を信じて 希望を絶やさず
これからも 力強く生きてほしい

新しい生命があなたを 待っているのだから

兄より

Road to Vision2020

2020年へのビジョン掲げ 走り抜け 目指す先は遙か遠く
一つの通過点 立ち止まることなく 確かな成果を手中に収め
目立つことに満足することなく やるべきこと淡々と
持続的なりズム刻む 時代のビートにも合わせ
社会や世界で優雅に踊ることも忘れず
悠久な歴史の一コマ 時に思い切ってサイコロ振る
運も味方する 運動かどうかを確かめる必要もなく
運河を渡る船乗りのように 周囲に冷静に気を配り
大気の変化を注意深く見極める
極める各々の道 導きの手を決して放さず
離れた亡霊の怨念に惑わされず 憐みの心抱き
雨上がり 太陽の光がすべてを照らし出すのを信じる
まぶたの裏に焼き付ける 見えない紋章
選ばれた者たちに授けられた 誇り高き勲章
開かずの扉を開け放つ力
自らの限界超え 人智を超える戦略を信じろ
小賢しい頭 いくつ並べたって さもしい作戦なら大した意味もねえ
小細工はなしだ 正面から堂々と勝負だ
勝機ある戦に挑むのだ
勝ちにこだわり 勝つための布陣を配備せよ

2020年へのビジョン掲げ 走り抜け 目指す先は遙か遠く
一つの通過点 立ち止まることなく 確かな成果を手中に収め
いよいよ来るべき時代の到来 拍手喝采
万歳で迎えられる群れとなれ
枯れ木にも水をやれ 若木だけじゃ物足りねえ
根っこを深くはれ ハレルヤ 天晴れ 未来の空は晴れ晴れ

小細工はなしだ 正面から堂々と勝負だ
勝機ある戦に挑むのだ
勝ちにこだわり 勝つための布陣を配備せよ

2020年へのビジョン掲げ 走り抜け 目指す先は遙か遠く
一つの通過点 立ち止まることなく 確かな成果を手中に収めよ

Mission

何かの存在意義 Wikiでは分からない意味
キミの ミッションって何? ってかテメエの団体 何が目的?
世界征服 ならマジ無理 ってか無意味
意義ある志 指し示す未来への意志
いにしえからの啓示 堅持すべき Initiation
我らの Nation どうあるべきか suggestion
無論ただの Nationalismや 机上の空論じゃねえ
グローバルでヒストリアルリアルな理論さ

さあ我らHuman being What should be?
美化した人生じゃびた一文にもなりやしねえ
死へのカウントダウン 免れぬ誰しも
何度も 自らのミッション 向き合わねばならねえっしょ
言葉で誤魔化さず 行動で show you
そういう 我らの使命を共有 to you

最初から最後まで変わらない目的
アルファからオメガまで同じ目的
小さな人間の 小さな願望超え
太初から神様願う 人間の生き様
それが果たされぬまま まんまと悪魔の罠
抜け出せずあえぐ 憐れな 人様の illな姿さ

さあ我らHuman being What should be?
美德と言われることを疑え
ビートに乗れ ノリノリの音の波を乗りこなせ

さあ我らHuman being What should be?
太初から神様願う 人間の生き様
死へのカウントダウン 免れぬ誰しも
何度も 自らのミッション 向き合わねばならねえっしょ
言葉で誤魔化さず 行動で show you
そういう 我らの使命を共有 to you

Check in the Spirit World

心の存在 ぞんざいに扱う人 そう多くない
目に見えぬ存在 案外 信じる人 少なくない
でもね「霊界」って言うと「オカルトかい」って引く人多そう
死後の世界 まさか今の自分に 関係なさそう
死なんてまだまだ だいぶ先のこと 今はこの世のこと で頭一杯？
でもね ニュースで見る死亡事故 まさか本人 死ぬなんて決して思わない
いつお迎えが来るかなんて 誰にも分らない
だから仕事のこと だけじゃなく 死後のこと 今から考えてみない？

「オカルトかい」って 真実から目をそらす態度 科学的じゃない
心の存在 神の存在 死後の世界の存在 なんて 今の科学じゃ証明できやしない
それでも疑わない 心の存在 目に見えぬ存在
死後を見据えること すなわち この生を見つめ直すこと
この思考が変わらない限りは 人は死んだって 変わりはない？
身体なんて この地上のせいぜい80年位の 仮の宿に過ぎない？
本質はその心 あなたの人格そのもの
問われるのはそう 生前の精神そのもの？

決して見えない 霊界に行きたくないかい？
そこは遊園地のように 愉快に行きたいと 選択できない世界？
こっちは有限な世界 あっちは幽玄な世界 無限な世界？
行ってみないと分からない世界
もちろん俺も行ったことのない世界
霊界があるかないかのこの問いの 正解は死んだ後に了解？
正解の生き方 なんてあるかないかは分からない
もし不正解の生き方なら 霊界の奈落の底にさいなら？
きっと今頃 淀川長治さん 黄泉の川のほとりで映画三昧？
そこは映画の世界 超える世界？ 最高の世界なら万々歳

「人生は一度きり」って言うけど それって本当？
人生が永遠 だったら本望？
「心の持ち様 次第」って言うけど 終着点 みんな一緒？
一生 楽しく暮らしたいなら 永遠の住み家を考えよう
一生 楽しんで暮らしたいなら 苦勞の意味 その味わいを知ろう
いつまでも人生の素人ではなく 玄人のFlowを聴こう

遅かれ早かれ 人は旅立つ
思い立つのは早いに越したことはない
人生は一度きり ギリギリの綱渡りのようなLife
見直すのに 遅過ぎることはない
目の前に広がる この光景のさらに奥に 先にある世界に
行ってみないと分からない世界に
今の科学じゃ証明できやしない世界に
映画の世界 超える世界に
遅かれ早かれ 人は旅立つ

人生は一度 人生は永遠
身体なんて この地上のせいぜい80年位の 仮の宿に過ぎない
Check in the spirit world
人は死んだって 変わりはない
本質はその心 あなたの人格そのもの
問われるのはそう 生前の精神そのもの

人生は一度 人生は永遠
Check in the spirit world
行ってみないと分からない世界を 探求せよ

Change your worldview

思考 夢想 国士無双のFlow から

壮大な世界観生きろ 六畳間の世界から抜け出ろ Rock on

木火土金水（もっかどごんすい）相生（そうじょう）相剋する関係性

性関係が 男女 雄と雌 陽と陰の生態系を形成

計画された創造 その想像絶する精密な設計

偶然？ 全然そう思いません 神秘的過ぎる森羅万象

知らな過ぎるしらけた Show 観る冷めた観客かい？

見えないサングラス外して見よ ミクロとマクロに存在する心の太陽

照らせ天照大神 祀る この国の民のため

御霊宿るこの言霊 届け この言葉聴くりスナーへ

思考 夢想 国士無双のFlow から

壮大な世界観生きろ 六畳間の世界から抜け出ろ Rock on

アナタのその思考 一見孤高でもどこまでも飛翔し

時空超える 故障しないタイムマシン

“我思うゆえに我あり”とありありと 思うことなく日々生きる

思考の蟻地獄生きる 悲しい人間の性（さが）

だが科せられた思いの十字架 かいくぐる人間の創造性

Creation から始まる 今に至る人類のドラマ

これからも未来永劫 神を知れば Life goes on

No ドグマ 狂信する信者ならどきな

なあとぐる巻くデーモン この心から出ていきな

解き放ちな 恨み憎しみの思いから 鳩のように飛び立ちな

Stand up 人はいつだって立ち上がる

好きな音楽聴くだけでアガれる

生きる真の意味知って 一步一步 お互い上がっていこう

人生と人類の螺旋階段を

思考 夢想 国士無双のFlow から

壮大な世界観生きろ 六畳間の世界から抜け出ろ Rock on

Creation から始まる 今に至る人類のドラマ

これからも未来永劫 神を知れば Life goes on

My Little Story

宗教にハマった奴のストーリー 少し聞いてみないか？

21世紀迎え 間もない 21迎える前の ハタチの夜
新宿歩く若者に伸びた手 魔の手 神の手？
あれからもう10数年 信者になってそう10数年
もちろんRap は Biginner Prayerとしてもぺいぺい
人生は No pain, no gain
失ったモノも数知れないが 得たモノの価値は 計り知れないんだ

if などないこの人生で 出会っちゃったこの道を
迷いながらも行くんだ この一本道を
人生っていうラビリンスに 歌おうラブソングを

クラブに通った学生時代
アートや精神世界に 足踏み入れた
ヨガや座禅組んで 悟り求めた より高い次元の 生を求めた
人並みに 人並み以上の 愛ってヤツを求めた
“求めよ、さらば与えられん”が 変わらない座右の銘だ

あれからもう10数年 信者になってそう10数年
人生は No pain, no gain
失ったモノも数知れないが 得たモノの価値は 計り知れないんだ
あの時 ハタチの俺に伸びたあの手は 魔の手か 神の手か？
その手は 今も俺を手招き 導いている

if などないこの人生で 出会っちゃったこの道を
迷いながらも行くんだ この一本道を
人生っていうラビリンスに 歌おうラブソングを

宗教にハマった奴のストーリー もう少し 聞いて欲しい

Introduction

Yo 俺はあの悪名高い統一教会 本部の職員さ
つまりただのしがねえ 一般Peopleさ
騒ぐな ざわつくな Bad Boy
誰にだってRapする権利はあるだろ？ You know？
自分で言うのもなんだが 善良の一般People の
かつてはParty People の 詩（うた）にひと時 付き合いな
いつかの晩飯の 笑いの種にでもしな なあ兄弟

Yo 俺はあの悪名高い統一教会 本部の職員さ
2015年8月 名称が「世界平和統一家庭連合」
通称「家庭連合」に改称 You know？
元は「世界基督教統一神霊協会」 韓国発の 宗教団体さ
騒ぐな ざわつくな Bad Boy
売人 罪人 悪人こそ 救いが必要さ
“善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや”
知らん？ 親鸞聖人の説法 響く 今は末法（今は末法）

宗教なんて胡散臭えんだよ 弱え人間のすがるもんだろ？
神も所詮 人間の空想の産物 俺には関係ねえと
思ってるBad Boy はじめ 多くの善良な一般People に告げよう
善と悪 義と不義 人の生きる倫（みち） わきまえる上で
人は親である 神を知らねばならない（神を知らねばならない）

Yo 俺はあの悪名高い統一教会 本部の職員さ
誰にだってRapする権利はあるだろ？ You know？
これから俺が どんなRapするのか
統一教会の信仰も交えたLyric 聴いてくれよな
いつかの晩飯の 笑いの種にでもしな なあ兄弟

※ビートを募集中

天下の宴

太陽が沈み
月が 光を放つ時代
開かれる 天下の宴

ここに至る道は
一本に非ず
全ての人々を
結ぶ 無数の導き

善き人であれ
悪しき人であれ
その一筋の光は
男と女を
ふさわしく 結び合わせる

一年に一度
開かれる 天下の宴

善き人であれ
悪しき人であれ
悪を挫（くじ）き
善く生きよと
一人 一人に
一筋の光
無数の導き

我等の太陽と月は
未来永劫
男と女を
全ての人々を
結び続ける

開かれる 天下の宴

その扉は
善き人であれ
悪しき人であれ
思いがけず 開かれる

全ての人々と
共に のぞもう
共に 祝おう
天下の宴

(2016年2月21日、韓国にて)

真実に生きる

男女が誓い合った時に
握り合った手と手を
どちらかの最期の時まで
握り合っていて欲しい

男女が祈り合った時に
重ね合った心と心を
どちらかの最期の時まで
重ね合っていて欲しい

人は やがて旅立つ
男が先か 女が先か
遅かれ 早かれ
旅立つ時が来る

しかし人は
その旅先を知らない
隠れた真実を

この地上で
誓い合った言葉も
祈り合った言葉も
旅先でも こだますのに

この地上で
握り合った手も
重ね合った心も
旅先でも 感じ合えるのに
人は その旅先のことを知らない

二人の永い旅は
まだ始まったばかりだ

これからも この地上で
二人で 何度も 何度も
握り合い 誓い合い
祈り合い 心重ね合う

愛し合う 男女の永い旅は
決して終わらない
これが 隠れた真実

愛し合う二人には
真実に生きて欲しい

最期の時まで
永い 永い 旅に向かって

(2016年2月21日)

母の胎内へ

母の胎内へ

入ってしまったような

温もりと安らぎ

胎内にいた記憶などないが

なぜか懐かしい感覚

こんな気持ちを

人と人が分かち合えれば

やがて分かり合えるだろう

人は生まれやがて

冷たく 厳しい世界で生きてゆく

人と人が 憎しみ合い 争い

やがて 別れてゆく世界で

誰かを疑い 誰かを憎み

その思いがさらに人々を

暗闇の世界へといざなう

人と人が 分かり合うために

母の胎内へ

入ってしまったような

あの 温もりと安らぎを

人と人は やがて 分かり合える

母の胎内へ

入ってしまったような

あの 温もりと安らぎで

きっと 分かり合える

こんな気持ちを

ずっと 持ち続けていたい

(2015年11月30日、清平にて)

たった一人のチカラ

たった一人で 何が出来るのか？
たった五人、十人で 何が出来るのか？
何も出来ないと思ったら
何も出来はしない

たった一人の
言葉のチカラ 行動するチカラ
たった一人のチカラが 社会や世界を動かす
そう固く信じる人が
一人、二人、三人... 集まれば
何でも出来ると思わないか？

たった一人の
言葉のチカラ 行動するチカラ
たった一人のチカラを信じ
自らを動かし
まずは目の前の人を
動かすことが出来るか？

一人の人を動かすことが
社会や世界までも動かす

たった一人で 何が出来るのか？
何でも出来ると思わないか？
同志たちよ

渋谷区から鳴り響く狂詩曲（ラブソディー）

この国で 男と男が 女と女が
結婚する日が やって来るかもしれない

そのように歓喜するカップルが
ファンファーレを鳴り響かせ
またパレードをすることだろう

太古より今に続く 男と女の結婚
男と女が家庭を築き 子女が誕生する

子女は成長し 結婚し家庭を築き
子々孫々 現在の我々にまで至っている

子供が産めないからと
同性の結婚を 批判はできない

男女の結婚による 男女の家庭が 破綻している現代
古き良き家庭など もはや懐かしいメロディー

聴いたこともないメロディーより
今盛大に響くファンファーレに
耳を奪われてしまう若者たち

男と男は 女と女は
ただ自分たちの幸せを願う

この国の行く末や 人類の未来に思いを馳せる時
男女による結婚と家庭は今 挑戦を受けている

渋谷区から鳴り響くラブソディー
男女による結婚と家庭の真価が
今問われている

美しい音色を響かせなければ
決して拍手など起こらない

渋谷区から鳴り響くラブソディー
我々はこれからも 耳が離せない

#9 夜

灯りを見つめながら
眠れない夜を過ごしてきた
数千万の人たち

誰もが一人 悩みながら
夜と呼吸してきた
そんな仲間たち
見ず知らずの
名前も知らない
明るみになることもない
数多くの人たちの
生きた証が 星空の光

明日からの未来も
眠れない夜を過ごす
数多くの人たちが
灯りを見つめている

夜空には 星が光る

#8 伝えたかったこと

2月17日

この日 私は一体 何を伝えたかったんだろう？

何を描きたかったんだろう？

そんなものが私に 見えていたんだろうか？

空白をただ埋めるだけの言葉を重ね

脳裏をよぎるイメージを紡いでも

そこに伝えたかった 描きたかった

何かがあったらだろうか？

空しく発散する愚かな人類よ

私もその一人で

精根尽きるまで 言葉を吐き続ける

言葉で犯した罪は 言葉で償う

何を伝える訳でも 何を描く訳でもない

そんなぼんやりとした日を

ここで締めくくろう

#7 言葉

思考を言葉にする
口から出た言葉が
思想にフィードバックする

見たものを言葉にする
聴いた音を言葉にする
人は言葉を生業とする

この言葉を誰かに伝えようとする
誰かにではなく あなたに伝えようとする
あなたの心の奥底に届けようとする
それは拒絶されることもある
途中で消失してしまうこともある

この言葉に何ができるのか
沈黙する方が良いこともある
それでも思考を言葉にする

#6 無題

覚醒し続ける 新人類
その意識は どこまでゆくのか
神の領域を侵犯しようとする野心が
自らの精神を麻痺させ
自らを審判しないように

#5 時間を料理する

午後2時22分27秒

その瞬間から5秒過ぎてしまった...

つまらない時に囚われてしまう私たち

「時間の囚人」などと

つまらないことは言わないようにしよう

母親が夕食のために

何かの野菜を刻むように

私たちのいのちの時間も刻まれていく

その時間を刻んでいるのは

神に違いない

私たちを生かし

私たちを殺そうとするのか？

そうではない

この世界で 私たちを料理し

最高の料理を 提供しようというのだ

今も刻まれている

私たちの運命

#4 無題

小便に行きたいのを我慢して
書かれる詩の価値

くすんだ黄金色
嫌なことを想像しないでおくれよ

排泄することの気持ち良さと
ただ書きなぐった言葉

小便器を見て
誰が無価値だなんて言えるんだい？

#3 寝起き

私は起きている

妻は寝ている

娘も寝ている

母は起きている

父は眠ったままだ

妻が目を覚まし

娘はまだ寝ている

私は眠りたい

娘が目覚まそうとしている

家族みんなが目覚まし

家族みんなが眠りつく

父は眠ったまま

私はそろそろ眠りたい

目を覚まして

家族をリードしたい

父に代わって

私も父として

そして 眠りたい

#2 無題

ペンをにぎり
しわくちゃな壁を見つめ
深く一息

絡まり合ったコードと
一本の毛髪
外には車が行き交う

静かな部屋に顔を伏して
明日など見えていない

#1 無題

“し”とは何かを
かぜで横たわりながら考えた

“ち”と“せい”

自分がこの地を去る時まで
問い続ける ものごと

時間は確かに 刻まれてゆく

聖戦と天国

聖なる戦いとは

武力と恐怖によるものか？

否、愛と祈りによるものである

天の国とは

人々の犠牲によるものか？

否、自らの愛と犠牲によるものである

汝等の振る舞いを

汝等の親 汝等の主は

どのように見つめておられるか？

我等がなすべき聖なる戦いとは

平和を生む行いであり

我等が向かうべき天の国とは

人々が愛し合う王国である

己を武力と恐怖から解き放ち

己を愛と祈りによって治めよ

汝等の愛は 憎しみを生み

汝等の祈りは 呪いを生んでいる

まことの愛と祈りにより

平和を生む行いこそが

聖なる戦いであり

自らの愛と犠牲により

人々が愛し合う王国こそが

天の国である

己を武力と恐怖から解き放ち

まことなる聖戦と

まことなる天国を

目指そうではないか
兄弟たちよ

※この詩は、アラビア語に翻訳することを想定して書いています。

God Bless Japan

神に祝福された日本よ
その祝福は 自国だけのものではない
世界の母なる国として
さらなる発展を遂げよう
God Bless Japan

神に祝福された日本よ
真実なる心と愛で
世界の国々を生かしてゆこう
平和を愛する国民として
神 願われる世界を築いてゆこう
God Bless Japan

神に祝福された日本よ
世界の母なる国として
さらに前進してゆこう
神 願われる世界へ
神に祝福された日本よ
God Bless Japan

幸せの辛さ

今、妻と子と離ればなれ
とっても寂しいよ
早く会いたいよ

今、やるべきことに集中するため
極力、電話もしないと決めた
子供の成長を楽しみに
私自身が成長する時

そんな中、妻からのメール
新たな生命の予感...
大事な時に
合わせたかのように
大事なことは起こるもの

「幸せな辛さ」という
妻からのメールにも
今、やるべきことに集中する

これもほんの小さな
幸せな辛さ

復活の日

今日 私の中で 聖和(逝去)され 復活されたあなた

あなたの聖和を 分かっているつもりだったのに
あなたのことを なにも知らなかった

あれからもう 一年以上経つのに
今日知ったあなたは
私の中で 静かに聖和され
私の中で 確かに復活された

私の億千万倍以上に 涙を流され
私の億千万倍以上に 嗚咽されたあなた

もうこの目で
あなたを見ることはできない

私は その涙の跡を忘れない

もう見ることのできないあなたは
いつも 私のそばにいる

今日 私の中で聖和され 復活されたあなた

今日から
あなたの大きい愛に応えて
生きてゆく私になる

2015年1月20日

出会い

この出会いは
運命の悪戯（いたずら）か
神の導きか

出会いとは
運命のコンパスによって描かれた
幾つもの円が交わる 点と面だ

時間を共有し
五感で共感し
第六感で共鳴する

思いがけない 出会いに至る軌跡は
時に人智を超えた 美しい放物線を描く

もし人の365日が360度の円ならば
再会とは 何回転した際の縁なのか
回り回って 巡り巡って
再び交差し 始まる交際

これまで 数奇な人生の螺旋階段を
上って来たのか 下って来たのか
我々には分からない

人は出会い
また別れ
再会する

幾たびの別れもあろうが
再び出会うことの妙は
生きていくことの醍醐味だ

この出会いは
運命の悪戯か
神の導きか

我々には分からない

“縁”と言ってしまえば

一言で済んでしまう

幾つもの“円”の軌跡

この縁の奇蹟に 乾杯

あの大いなる月に抱かれて

あの大いなる月に抱かれて
今宵は安らかに

突然の旅立ちに戸惑い
狼狽（うろた）えたことだろう

されど 光の援軍来りて
天高く 人々を導いてゆかん

崇高な魂は 灰より出で
そのまばゆさは
この列島を照らす

今宵 浮かぶ月のまばゆさは
人々の 魂の輝き
涙で曇る 我等の心を照らす
生命（いのち）の光

あの大いなる月に抱かれて
今宵は安らかに

また 我等と共にゆこう
灰色の列島を照らす
まばゆい 光の群れとして

（10月6日、満月の綺麗な夜に）

魔法のカード

※この作品は、詩ではなく、妻へのクリスマスプレゼントです。

この魔法のカードを提示したら
次のことを必ず実行する。

目と目を合わせ
真剣に
心の底から
2つの言葉を
5回ずつ
ゆっくりと伝えること。

「いつもありがとう」(x5回)

「愛してるよ」(x5回)

(2つの言葉は、相手の希望により変更可能)

このカードの有効期限は、一生涯永遠。

ホワイトデーは ホントにゴメンね

ホワイトデーは ホントにゴメンね
期待を裏切って ホントにゴメンね

これからは
その愛情を 裏切ることがないように
この愛情を 引き締めていきます

記念日だけでなく
いつでも どこでも あなたに
喜んでもらえるように
愛を感じてもらえるように

自然体でありながらも
引き締まった愛情を
あなたに贈ります

ホワイトデーは ホントにゴメンね
そして いつも いつも
ありがとう

これからも
たった一人 あなたを
愛しています

生きる理由と生きる意味

この子のためなら
死んでもいいと
思える時がある

だが
この子のために
絶対に死ねない
死ぬことなど
絶対に出来ない

たとえ死んでも
あの世から
この子の成長を
見守るだろう

だが
絶対に死ねない
この世で
この子の成長を
必ず見届ける

生きる理由と
生きる意味に
大きな変化をもたらした
小さくて大きな存在

この関係性

眠っている
永遠の存在
見つめている
永遠の関係

これから
どんなに時が流れても
決して変わることはない
この関係性

これから
何度も何度も
眠って
目覚めて
見つめ合って

たとえ
離れてしまっても

永遠の存在
永遠の関係

眠って
目覚めて
見つめ合って

この関係性

永遠
永遠の
この関係性

真の追慕

追慕されることなど
望んでいない

我々の前進こそが
あなたを鼓舞し

我々の勝利こそが
あなたを安堵させる

地上と天上
二つの世界を
隔てることなく

現在と未来
己の限界を
決めることなく

あなたと共に前進し
あなたと共に勝利する

あなたは
追慕されることなど
望んでいない

真の追慕
それは
我々の前進
我々の勝利にあり

ミッションステートメント

私たちの“ミッション”とは何か？

それは
神様が太初に願われた
幸福な家庭と
幸福な世界を築くこと

ただ私だけが
幸せを感じるのではない
私の家族 親族
私たちの暮らすこの社会
この国 この世界の
すべての人たちが
幸せを感じる
そんな世界を築くこと

それが私たちのミッション

神様が願われるミッション

三十年

三十年という年月は
あなたを
女性にし
妻にした

これからの
三十年という年月は
あなたを
母にする

これからの
三十年という年月を
わたしたちは
夫婦として
父母として
共に成長する

三十年という年月を
振り返るとき
“悔いはない”
と言える
人生を送る

夫婦として三十年
父母として三十年

三十年という年月を今
喜びで迎える

夢じゃない世界に

慕わしい人が
夢に現れたなんて
素晴らしいじゃないか

私はしばらく
夢を見ていない

目を覚まして
これから先の
そのずっと先を
見つめている

そう
私達の
慕わしい人が
ずっと
見つめている先

夢じゃない世界
素晴らしい世界を
見つめている

そこに向かって
目を覚まして
ずっと
進んでゆく

慕わしい人が
夢に現われたなんて
素晴らしいじゃないか

これからも共に
進んでゆこう

私達の
慕わしい
人と共に

夢じゃない世界に

生命の声

鼓動は聞こえないが
確かに動いている心臓

生まれてくることを
切望している
ようにも見える

人間の意志など
関係なしに
生きようとする命

これが
与えられし
創られし
生命

あきらめることや
途方に暮れることを
知らない生命

既に
強い意志を示す生命

人間の意志など
関係なしに
確かに動いている心臓

鼓動は聞こえないが
生命の声が
確かに聞こえる...

刃をおさめた男

憎悪の刃を
おさめた男

軋み続けた
悲しみの歯車が
動きをやめた

和解という
人の最も美しい姿に
涙が溢れる

人類を拘束してきた
愛憎の二重螺旋から
解き放たれる道

あの男のように
刃をおさめ
大義の種を埋める
自ら 和解の 大使となる

悲しみの歯車は
いつの間にか
清らかな水に廻る
水車になる

クラっとするような
暑い日一
付き添いで
ホスピタル

既に母となった
女性たち
これから母となる
女性たち

これから父となる男は
こんなくだらない
詩を綴っている

まだ 壮絶な瞬間を
想像もできない

逃げ腰の男はこれから
自らを奮い立たせる

これから母となる
これから父となる
私たちへ

ほんのささやかな
エールを
ホスピタルから

私たちはいよいよ
「父母」となるのだ

二人の時間

これから

3人になっても

4人になっても

いずれ

二人の時間

この時間で

決まってしまう

永遠という時間

3人になっても

4人になっても

結局

二人の時間

談笑も

沈黙も

味わう

苦悩も

感激も

分かっ

二人の時間

永遠に

流れてゆく

二人の時間よ

銀のネックレス

大切な人から
大事なものを頂いた

それは
銀のネックレス

あまりの嬉しさに
大泣きすると
目が覚めた

首には
銀のネックレスは
なかった

それでも
大切な人から頂いた
大事なものは

今も
この心と体に
宿っている

新たな生命として

幸せ

不意に

「幸せ」とたずねた

夫が答えた

「君と〇〇〇がいるから

幸せだよ」

私はしばらく

幸せにうずくまっていた

私の幸せ

幸せを

掴むことはできない

代わりに あなたを

抱きしめることができる

あなたの吐息は

幸せの息吹

あなたといると

「幸せ」なんて

忘れてる

あなたが

私の幸せ

ひかりに

かぞくの

ちいきの

にほんの

せかいの

じんるいの

みらいの

ひかりに

命名

命につける名前

命を吹き込む

込めた祈り

光り出す命

悲願の生命

光り輝く

あの頃

あの頃を
忘れていないか？

ゆっくりと
歩いていた
あの頃を

全速力で
駆け抜けた
あの頃を

忘れていないか？

忘却が
思い出を
追い越さぬように

あの頃の
あの声を

あの頃の
あの心を

忘れない
あの頃を

それぞれの夢

隣で眠る妻は
夢を見ているのだろうか？

お腹の中の子供も
夢を見ているのだろうか？

私は一人
目覚めている

二人のことを
考えながら

これからの
夢を見ている

ペンを走らせる

トヨさん

真民さん

何気なく借りた詩集から

立ち上がる 二つの魂

言葉に接し

魂に触れる

そして こうして

ペンを走らせる

届くことを

信じた言葉が

伝えることを

諦めなかった魂が

こうして

ペンを走らせる

私も

会ったこともない魂を

目覚めさせる

そんな魂になりたい

そして こうして

ペンを走らせる

どっちなの？

どっちでも構わないが
そろそろ知りたい
どっちなのかが...

じらさないで
教えておくれ
どっちでも構わないさ
でもそろそろ
どっちなのかが
知りたいんだ

ねえ どっちなのかな？
じらさないで
教えておくれよ

神の秘密

「神秘」という言葉で
片づけたくない

宿った命は
たくましく鼓動する

「当然」という言葉で
片づけるな

命が宿り
命が躍動すること

神の秘密に
踏み込む機会

「神秘」という言葉で
「当然」という言葉で
片づけないで

神の秘密に
あと一步踏み込む

ホワイトデーに

ホワイトデーに
「Why ?」と問う

なぜボクは
アナタを愛するのか？

それは
アナタだから

ボクはアナタを
愛しているから

ホワイトデーに
愛を込めて...

光あれ

家族は光
明るく温かい
優しい光

「光あれ」と
神様も云われた

この世を照らす
優しい光
明るく温かい
家族は光

光あれ

人と国

国をまたいでも
まばたきをする
呼吸をする
片言でも 言葉を交わす

国の言葉は違えども
まみえることのできる
人と人 国と国

同じくまばたきをし
同じく呼吸をする
それぞれが
国を代表した人間

まずは一緒に
まばたきをしながら
呼吸をしながら
片言でも 言葉を交わす

国と国を結ぶのは結局
人と人

ガラガラと

ガラガラと
音を立てて崩す
自分のカベ
色々なカベ
ガラガラと

見慣れたカベに
色を塗る
色々な色
混ぜ合わせて

そろそろ
カラカラの心にも
みずみずしい
未来への希望を
注ぎ込もう

カラカラに乾いた
見慣れたカベ
ガラガラと
音を立てて崩れる

色々な色を塗った
自分のカベ
また崩して
また築く

ガラガラと
ガラガラと

ここがダンスホールだったら

ギュウギュウできゅうきゅうとする
行き場のない思いまで
押し潰されてしまう

漏れる音楽やら
鳴り響く着信音
そう ここがダンスホールだったら
もう エキサイティング

ギュウギュウできゅうきゅうとする
満員電車の中で
顔や心まで
押し潰されないで

くだらないことでも考えて
そう ここがダンスホールだったら
もう エキサイティング

ギュウギュウでも
きゅうきゅうでも
もう エキサイティング

七か月後に

七か月後に
会うきみに

私は今
ただ待つだけ

まだ見ぬきみに
せめて 声をかけ
そして 祈るだけ

七か月後に
きみに会えたら
泣いて
泣いて
喜ぼう

私たちの最初で
最高の出会いに

夢を掘り続ける

夢を掘り続ける
呆れた男たちの
まっすぐな道

信念と情熱を注ぐ
美酒に酔いしれ
冷たい波風を
耐え忍ぶ

いつか いつの日か
諦めなかった男たちの
まっすぐな道が
開かれる

夢を掘り続け
夢よ掘り進め
神と人類との塞がれた道よ
まっすぐな道よ
いつか いつの日か
開け

それまで
呆れた男たちは
諦めなかった男たちは
まっすぐな道を
夢を
掘り続ける

それぞれの暮らしの中に

それぞれの暮らしの中に
木枯らし吹いて
身を寄せ合い
温め合う

理想だけでは
空しい
現実には常に
つきまとう

忘れることのできない
ドラマ
人知れぬ
弱音
吐いて
吐き散らかして
木枯らし吹いて

今は空しい
理想と現実を抱いて
泣いてもいい

弱音吐いて
木枯らし吹いて
身を寄せ合い
温め合う

それぞれの暮らしの中にある
つながりと
ぬくもり
確かめ合う

共に歌おう

共に歌おう

この歌声が響くよう

耳も心も澄まそう

共に歌おう

この歌声が一つになるよう

人や国も一つになれる

兄さん 姉さん 弟たちよ

家族を超えた 家族に

兄さん 姉さん 妹たちよ

民族を超えた 民族に

共に歌おう

この歌声が一つになるよう

人や国も一つになれる

共に歌おう

この歌声が一つになるよう

人や国も一つになる

ひとつの国へ

左手と右手を合わせて
ひとつの祈りを捧げよう

左足と右足をそろえて
ひとつの大地を踏みしめよう

南も北もない
上も下もない
ひとつの国へ

左手と右手を合わせて
ひとつの祈りを捧げよう

左足と右足をそろえて
ひとつの大地を踏みしめよう

我らは祈り
我らは歩き
ひとつの国へ

南も北もない
上も下もない
ひとつの国へ

我らは祈ろう
我らは歩こう
ひとつの国へ

希望の種

今はまだ
暗く寂しいこの道
自ら進みたくもないだろう

派手やかな所も
よく見てみるといい
その華やかさの陰には
残酷なぐらいの暗闇がある

今はまだ
暗く寂しいこの道
やがて自ら進んでゆき
希望の種を植える

自ら進みゆく自分と
この道を進もうとする人に
希望の種を植える

妻のいないウチ

妻のいないウチは
人のいない天国

妻のいないウチは
香りのないコーヒー

妻のいないウチは
魂のないジャズ

妻のいないウチに帰る
見つかることのない「自分」を探す旅

妻のいないウチに帰る
パジャマで宇宙を遊泳する

妻のいないウチに帰る
バクテリアと私だけ

妻のいないウチ
早く帰って来ておくれ

耳を傾けて

ささくれの痛み
叫び その声に
耳を傾けているかい？

一見 耳ざわりな
ささやき その声に
耳を傾けているかい？

己（おの）が耳と
己が心を澄まし

ささくれの叫び
耳ざわりなささやきに
耳を傾けて

ささくれの痛み 痛み

その御名（みな）を

その御名を聞いたのは
今からおよそ9年前...

その御名を聞く者は多く
その御名を知る者は多い

されど その御名をたたえ
その御名に従う者はいかばかりか

その御名を聞いた自らが
その御名を知った自らが
いかに生きてゆくのかにより
その御名の真価が証明される

その御名をたたえるだけでなく
自らの生き様により
その御名をたたえよ

今からおよそ9年前
その御名を聞いた

その御名を胸に
これからも生き続ける

新しい朝

満月の 輝いた夜が終わり
これから 新しい朝を迎える

白く霞んだ月が
見守り続ける
この大地のために
これからも 汗を流そう

荒んだ空気を吹き飛ばし
荒い鳥たちを追い払う

その眼は 今を
どのように見つめているのか？

白く霞んだ月が
見守り続ける

満月の 輝いた夜が終わり
これから 新しい朝を迎える

人々よ
目覚めの時だ

神に選ばれた聖女

死神に弄ばれた淑女

ついに その鎌に手をかける

今も震えが止まらない手

黒い刻印が浮かぶ

黄泉から誘う亡者たちの声に

耳を貸さず

この地で

生きることに専念せよ

その十字架が

消えるなどという

幻想に囚われず

その十字架を

共に負う

汝の救い主と

家族を信ぜよ

死神に弄ばれた淑女は

神に選ばれた聖女

いつか 震えは止まり

光る刻印が浮かぶ

その十字架を

共に負う

汝の救い主と

家族を信ぜよ

そしてこの地で
生きることに専念せよ

淵に横たわる貴方に

淵に横たわる貴方に

贈る詩

やがて

苦しみの波は引き

死のざわめきは遠のく

固く閉ざされたまぶたに兆し

いつもの息吹が聞こえる

安堵する日は

安着する日

また 貴方の言葉が

こだまする時まで

共に我等は

汗を流そう

やがて

苦しみの波は引き

死のざわめきは遠のく

共に安堵し

安着する日

その日まで我等は

共に汗を流そう

淵に横たわる貴方に

贈る詩

また 貴方の言葉が

こだまする

こだまする

妻となった君の誕生日に

妻となった君の誕生日に
一人 石巻で月を見上げた

電話ができて
誕生日をお祝いできる

離れていても
運命の二人が
共に生きているということ

お誕生日おめでとう
君のことを愛している

来年こそは目の前で伝えよう
妻となった君の誕生日に

お誕生日おめでとう
この一年も君のことを
愛しているよ

新生活

頂いた野菜
粹な皿もなく
彼女の腕前も
これから

やっと手にした
二人の生活に
乾杯
シュワワ...

こんな穏やかな夜を
こんな柔らかな灯りを
ずっと見つめ合っていたい
ずっと見つめ合っていたい

ここは僕等の宝島
輝く未来に
乾杯
シュワワ...

こんな穏やかな夜に
ずっと見つめ合っていたい
ずっと見つめ合っていたい

やっと手にした
二人の生活に
乾杯
シュワワ...

共に踊る場所

死者が踊る場所で
生者は語らい
盃（さかずき）を傾ける

彼女の仕草や
彼の風格
面影 浮かんでは消える

別れたことで
結ばれたモノ
失ったことで
得られたモノ

互いに再会を待ち望み
空で語らう

死者が踊る場所で
生者は語らい
盃を傾ける

いつか
共に語らい
共に踊る場所

君と空の旅

君の寝顔を見ながら
僕は空を飛ぶ

君の横顔の隣は青空

たとえこの壁がなくなっても
君の手は離さない

轟音にかき消される吐息...

君の寝顔を見ながら
僕は空を飛ぶ

この空との間に
君の手を握る

新たな家族

新たな命を見つめる
家族の喜び

新たな家族を迎える
家族の喜び

ここにはいない父も
喜んでいるのを感じる

これから
新たな命を見守る
家族の喜び

これから
新たな家族に宿る
新たな命

この家族に
また新たな喜びが
生まれる

愚かな歴史

愚かな歴史を繰り返す
愚かな人々の 二の舞になるな

愚かにも 優雅に踊る
愚かな歴史を 繰り返すな

その煮えたぎる愚かさを
よく冷ませ

愚かな 愚かな 愚かな
血は流れ 脈打つ

我々は 愚かな人間

もう 愚かな歴史は 繰り返さない

振り返れ 愚かな歴史

振り向くな 愚かな人々を

もう 愚かな歴史を 繰り返さない

気ままなシネマ

気ままなシネマ
のんびりと
コーヒーでも一杯

期待はせずに
思いがけない
涙を笑う

観客二人
のんびりと
まずは一杯

コーヒー香る
気ままなシネマ

今週も上映予定...

幸せな気分

春と一緒に
自転車をこぐ

憂いを颯爽と抜け

花びら追いかける

待ち遠しい日々よ

もう 冬を追い越す

春と一緒に
自転車をこぐ

春に幸せ
分けてもらおう

春と一緒に
自転車をこぎながら
幸せな...

なんて
幸せな気分...

逝かないでくれ

逝かないでくれ

生きる道は
いくらでもある

その手で掴み
その足で歩む
生きる道は
いくらでもある

はぐれてもいい
離れてもいい
いつの日か
分かり合える
許し合える
そんな道が
必ずある

逝かないでくれ

生きる道は
いくらでもある
だから
逝かないでくれ

大切な人よ
逝かないでくれ

逝かないでくれ

今年の桜

あの人も
今年の桜を
見上げている

あなたのそばで...

宿る思い
花びら運ぶ

あなたのそばに...

あの人も
今年の桜を
見上げている

あなたのそばで...

今年は
花びらと舞う

あの人と共に...

新しい波

新しい波が
この国から
世界へ

体験した者にのみ
与えられる
使命——

その使命を胸に

新しい波が
この国から
世界へ

この国は
決して沈まない
日出ずる国

その使命を胸に

この国から
世界へ

新しい波を

予言の言葉

未来は 己がつくる
他の誰でもない
未来は 己がつくる

これは 予言の言葉
未来に必ず成就する
予言の言葉

超能力ではない
己の能力と行動力で
実現せよ

未来を予言せよ
己の未来を予言せよ
必ず成就する 己の言葉
他の誰でもない
未来は 己が実現せよ

やがてとける

赦された気がした
いつの間にか そっと隠した
決して消える訳ではない
あやまち

この雪も やがてとけるように
そのあやまちも やがて
赦されよう

思いがけぬ雪が
そっと隠すように
そのあやまち
白く
とける

三十の路（みち）

我等 三十
この路に立つ

今は一人
この路を 確かに歩まば
必ず再会す

今は一人
迷い 立つ
三十の路

我等 三十
共に立つ
再会果たす
この路

欲望の海

際限のない 欲望の海にのまれ
もがいて もがいて もがいて
一瞬 浮き上がるも
また のまれる

もう この底知れぬ海に
もぐるのはよそう

希望の大地へ這い上がり
そしてそこでもがけ

欲望の海を 遥か彼方に望み
この地で もがく もがく もがく

バースデー

あなたと迎える 二度目のバースデー

私の誕生に 意味を与えるのは あなた

もう二度と あなたのいない バースデーは来ない
そう確信し 今日を迎える

心の中で

バンザイ

あなたの手を握って

バンザイ

あなたと迎える 二度目のバースデーに

バンザイ

あなたと迎える これからのバースデーに

バンザイ

バンザイ

私たちのバースデー

新雪

新雪 しんしんと
狂騒の時代も
息を殺す

春はまだ 夢の先
梅香る 園は幻
神の光が
すべてを 照らすまで

新雪 しんしんと
凍える時代は終わる
神の光が照らす
梅香る園
夢のような
春は 遠からず

塞がれた道

もがいても
もだえても
動かぬ
塞がれた道

このまま朽ちてゆくのか

痛みを忘れ 甘え
薄れてゆくのか
動かぬ
己の意志

このまま朽ちてゆくのか

塞がれた道を
もがいて もだえて

己の意志のみが
塞がれた道を
突き破る

特別な一年

あなたと過ごした この一年
これまでの人生の中で 特別な一年
この特別な一年が 一年 一年...
当たり前にならないように
来年も きっと 特別な一年

あなたと過ごす これからの一年
あなたを愛し あなたと歩く
特別な一年を
あなたと私
これからもずっと

寄り添う聖霊

冷たい父の背中を
擦りながら泣いた

卑しい自分を洗う
溢れ出る涙

聞こえない父の声が
鮮やかに浮かぶ

空虚な魂にそっと
寄り添う聖霊

あなたと共に
悶絶した父を想う

“私達はあなたの子供だ”
声にならない 思いを届ける

父の背中を擦る

頬は乾き
言葉が戻ってくる

この魂に寄り添う聖霊は
そっと...

再会の宴

一つの巣に
戻って来る

大きく旋回して

その羽ばたく姿は
昔も 今も 変わらない

力強く
この空を
どこまでも

どんなに高い壁も越えて
ここに降り立つ

巣を温めながら
天に歌おう

再会を祝う 宴備え
心から ラツパ吹き鳴らす

固い殻が割れる音
温められた巣に
大きく旋回して
その翼が見える

昔も 今も 変わらない
高らかな叫び声
一つの巣に響く

再会を祝う宴

天に歌う

二人の映画

これは 私たちの映画
私たち二人が主人公の映画

他に代役はいない
リハーサルもない
常に本番で
常に公開中の
私たち二人の映画

子供たちに語り聞かせたい
素敵な作品にしよう

Keep your strong spirit !

Keep your strong spirit !

生きる上で闘いは避けられない
逃げられない孤独な闘いは
常につきまとう戸惑うな同志
自らの精神を正視し
正解かどうかは分からないドアを
思い切りノックせよ

Keep your strong spirit !

固く閉ざされたアナタのドアを開けるのは
紛れもないアナタ
アナタにしかできない
たった一人の闘いを
神は
応援している

花火

一人、花火を見上げるより

二人、花火を見上げよう

これからの闇世に

愛と創造の

火花を散らす

たった一人の人と

見上げよう二人

大輪の花火を

二人の花火

弱々しくも

華々しく

光り続ける

やがて消える

一人の花火

決して消えぬ

二人の花火

一人、花火を見上げるより

二人、花火を見上げよう

これからの闇世に

決して消えぬ

大輪の花火を

結婚しよう

本当なら 今日にでも
今すぐにでも
結婚しよう

大好きな君と
結婚したいんだ

結婚しよう
来年には必ず

結婚しよう
僕と必ず

結婚しよう
この指輪はその 証だから

〇〇さん
結婚しよう

僕と
結婚しよう

ぼくの空

君の声の聞こえない空
ぼんやり
ぼやいた雲からは今にも
しずくがこぼれそう

外は天気がいいのに
この窓が 曇ってる
曇ってる

窓を開けると
ひんやりとした空気と
君の声が聞こえた
雲もうっすらと
笑う

ぼくの空も
ぼんやり
笑う

うわの空を

雨の街を 一人歩いても
どこへ行くのでもなく
ただ 歩いている
うわの空を 濡らす雨

「待ってる」と言っても
待ち切れない心
会いたいのに 会えないもどかしさを
これからも 何度味わうのだろう

雨の街を 一人歩いても
どこへ行くのでもなく
ただ 歩いている
うわの空を 濡らす雨

君に逢えたら 乾くのに
君に逢えたら 晴れるのに
うわの空を 濡らす雨
早くあがれ

ストールのように

ストールのように
あなたを

一枚の 薄手の
ストールでも
冷たい風から
あなたを

一枚の 薄手の
ストールでも
温かい日差しに
あなたを

あなたを巻いて
あなたに巻かれて
一枚の 薄手の
ストール

あなたを守り
あなたを彩る

ストールのように
あなたを

せせらぎから

いつもとは違う道を歩いたら
見えないモノが見えてきた

小川の輝きが 君を待っている
光のちょっとした具合で
世界がまるで 変わって見える

小川のせせらぎが 君を呼んでいる
風のちょっとした具合で
世界がまるで 変わって聞こえる

小川のせせらぎが 君に歌っている
ケセラセラ ケセラセラ
せせらぎから ケセラセラ…
せせらぎから ケセラセラ…

君の祈り

君を泣かせて
ここにいる

泣きたいのに
祈る 君がいる
そこに今
飛んでゆきたい

僕は一人
ここにいる
君を泣かせて
ここにいる

これから二人は…

泣きたいのに
祈る 君がいるから
僕は ここにいられる
祈る君のもとにも
飛んでゆける

君が祈り終わる時
僕ら二人は
共にいる

見届ける時

現実が今、立ちほだかっている

目を閉じてはいけない

夜明けの太陽を

見届ける時だ

瓦礫の山は崩れ

花の香りが誘う

新たな祖国を

見届ける時だ

現実が今、立ちほだかっている

瓦礫の山

目を閉じてはいけない

夜明けの太陽を

新たな祖国を

今、見届ける時だ

半月

ちょうど真上に月が…

半月だった…

君を思った…

僕の半分の

半月

欠けているということは

補えるということ

冷たい風を浴びながら

月がそう ささやいた

僕の半分の

君を思った…

君の半分の僕は今

月を見上げている…

希望の断崖

浮かんでは消える 根無し草
こんな世界に一体、何が残るの？
ただ産み落とされた訳ではないと
苛立ちと希望の狭間を行き交い
気付けばそこは 断崖絶壁

飛び降りるのは簡単さ
こんな世界に一体、何が残るの？

出会いは軋轢の前触れ
狂った福音の風が吹き抜ける

希望が立たされた断崖から
見える風景に言葉を失う

こんな世界に一体、何が残るの？
浮かんでは消える 根無し草
苛立ち それでも
希望の断崖へ

夜桜

足を止めて
夜桜
眺めて
春と君
どちらに早く
会えるだろう？

思いがけない
夜桜
空しい
春を一人
眺めてる

足を止めて
春を眺めて
君と夜桜

夢想

まどろむ私を起こすのは
あなた
待ちわびる春の陽気より
あなたを…

時間を無視して言葉は
静まる夜を彩る
あなたを待ちわびて
発酵した言葉は香り
あなたを酔わせる

電子的な肌と肌の戯れを
夢想する

まどろむ私を起こすのは
あなた

あなたを待ちわびて

あなたを夢想する

おんぶ

歩けなくなったら

おんぶする

だから

安心して

暗い夜道も

必ず

手を引く

だから

安心して

歩けなくなったら

おんぶする

構わないさ

おんぶするのが

僕の使命

だから

歩けなくなっても

安心して

この一年

この一年を
忘れる位
もっと素晴らしい一年を

忘れることのできない
千年経っても
忘れることのできない
この一年を

たった一年を
千年経って
振り返る
最初の
この一年を

二人の確信

二人の確信は
誰にも 譲り渡さない

嵐が来ても
二人の確信は
揺るがない

ろうそくの火が消えても
二人の確信は
光り続ける
二人でいる限り

二人の確信は
神が
堅く 握っている
二人でいる限り

二人の確信は
二人の確証に変わる

二人の確証に
神は
そっと手を放し
二人の確証に
そっと微笑む

当たり前の日々

駅のホームで別れる
別々の家（ウチ）に帰る
一人で休む

そんな当たり前のことが
当たり前でなくなる日が来る

一緒に電車に乗り
手をつないで
一つの家

当たり前の日々が
やがて
当たり前でなくなる

当たり前でない日々が
やがて
当たり前になる

手をつないで
電車に乗り
家に帰る

当たり前の日々よ

父が見守る

父が見守る
二人の背中

一言ももらさず
涙を浮かべて

少し大きくなった
私の背中
微笑みを浮かべて

浮かんでくる言葉
父からの言葉

見つめる二人
一言ももらさず

父が見守る
二人の背中

こんな僕を

こんな僕を
拾ってくれた神
もらってくれた
あなた

この世界で
僕を
救ってくれた
本当にもらってくれる人などない
こんな僕を
あなたは
もらってくれた

捨てる人はいて
拾う人はいない
この世界で
救ってくれた
こんな僕を
あなたと
神は
確かに
拾ってくれたのだ

会話の交差点

よく 電話が切れた

会話が途切れた

言葉が立ち往生

会話の交差点

色々な言葉が行き交い

時に 接触事故も起こる

それでもまた 電話する

切れてもすぐ

途切れて言葉が遅れても

血管が走るように

言葉が伝達する

ただ一つの思いを届ける

途切れても

接触しても

それでもまた

電話する

会話の交差点

たった一つの

思いを届ける

ムーンリバー

ムーンリバーを聴きながら
うっとり
君を見つめる

今夜も 月がきれいだ
窓から眺める
ソファに腰下ろす
ひっそり
夜も更け
吐息を聞く

こんな夜は
まだ来ない
月は こんなにもきれいなのに

一人きりで
ムーンリバーは聴かない

約束の地

横浜が私たちの
約束の地

鳴り響く鐘の音
羽休める鳥たち

家族の流す涙
二人の流す涙

濡れた地から
二羽の白いハトが
飛び立つ

横浜から私たちの
約束の地へ

最後の一言

何篇詩を詠んでも
この一言の前にはむなしい

何度口にしても
この重みは変わらない

最期の日まで
いつも
最後に一言

「あなたを愛しています」

その日が

その日が近づいてきている

覚悟せよ

もう二度と会えなくなる前に

できる限りの

思いやりと真心で

その日が近づいてきている

覚悟せよ

覚悟はもうできている

できる限りの

思いやりと真心で

その日を

迎えよう

父の呼吸

息をする父を見守りながら
つい 息を殺している

もう見えなくなった目は今でも
未来を見続けている

頑張ったよ
もう十分頑張った

それでもまだ
もう少し 頑張って欲しい

父の呼吸と
私の呼吸

息苦しさの中で
父を見つめている

息をしている父
息を殺している私

真実の誓い

父にはすべて
聞こえている

私の声も
電話からの妻の声も

話したことはすべて
真実だから

私の話も
妻の話も

誓ったことはすべて
果たすから

父にはすべて
聞こえている
私たちの
真実の誓いが

息子から

お父さんの息子で良かった
今はそう ハッキリと言える

お父さんは
こんな息子で良かった？

父と子
色々あったけど

今はそう ハッキリと言える

お父さんの息子で良かった

こんな息子だけど
お父さんの息子で良かったよ
お父さん

いつもの日々

また いつもの日々が
続いてゆく
悲しみの上に
涙の跡に
また いつもの日々が
続いてゆく

少し 立ち止まって
深い 呼吸をして
問いかける
答えは ない

悲しみを忘れ
涙も乾く
続いてゆく
また いつもの日々が

答えのない
問いかける
いつもの日々が

天母山

天の母よ

その胎をめぐり

決して届かぬ

あなたの純情よ

ぼくに

いっぱい いっぱい…

猫君

おい 猫君
おいとおまえは
何が違うのか？

おい 猫君
君は 幸せなのかい？
その目の光…
君は 幸せなのかい？

おい 猫君
この風
感じるだろう？
この風…

おい 猫君
おいとおまえは
何が違うのか？

おい 猫君
おいとおまえは
幸せさ
この風…

風来坊

風の音を聴きたいよ
耳栓なんて
外してしまいな
格好付けるな
風来坊

風のを聴きたいよ
産声
いのちの
耳栓なんて
外してしまいな
格好付けるな
風来坊

風の音を聴きたいよ
風鈴
凜と
格好良く
風来坊
耳栓なんて
外してしまいな
いのちの
産声
風のを聴きたいよ

吊いの言葉

ボクは ハタチで死んだ

ただ

ボクは 生きている

いまを生きる人へ

いつか死ぬ人へ

この言葉を

手向けよう

ありがとう

あなたは生き続ける

ボクは ハタチで死んだ

いまを生きる人へ

いつか死ぬ人へ

人は 生き続ける

共に弔う

ボクも 生き続ける

雲と心

流れゆく

雲と心

どこへゆく

あなたが 待つのに…

見上げてた

雲と心

知らぬ間に

消えてゆく

掴めそうで

届きそうで

伸ばす手は…

流れゆく

消えゆく

雲と心

掴めそうで

届きそうで

伸ばす手は…

天の下

あなたの手を

しっかりと握る

あなたの手を

メロディーのない歌

この声に
愛を込めて

メロディーのない
歌を 君と

必ず 歌おう
僕と 一緒に

人生を 愛で
歌い上げよう

僕と 一緒に

メロディーのない
歌に

愛を込めて

この声に
愛を込めて

人生を 愛で
歌い上げよう

僕等の中に

札幌、甲府、東京...

永遠の友情は今も...

僕等の情熱は今も...

あの頃とキャッチボールしながら

静かに燃える

聞こえない静かな声を

君の声を聞く

今日流す汗は

僕等の流す汗

声となり汗となり

永遠の友情は今も...

僕等の中に

永遠に 無限に

六十五億人類の中で

たった一人

めぐり会えた

あなた

百三十七億年の中で

たった一人

めぐり会えた

あなた

四千二百億の善なる霊たちも

たたえる

たった一人の

あなた

六十兆の細胞すべても

求める

たった一人の

あなた

永遠に 無限に

愛し続ける

たった一人の

あなたを

六十五億人類の中で

百三十七億年の中で

四千二百億の善なる霊たちも

六十兆の細胞すべても

たった一人の

あなたを

永遠に 無限に

愛し続ける

たった一人の
あなたを
愛し続ける…

永遠に 無限に…

私は
あなたを
愛し続ける…

ダイヤモンドよりも

ダイヤモンドも
プラチナも
ゴールドも
僕には買えません

でも
ダイヤモンドよりも
プラチナよりも
ゴールドよりも
あなたは輝いています

僕も あなたに
高価なモノを贈りたい

ダイヤモンドよりも
プラチナよりも
ゴールドよりも
あなたを輝かせる
決して変わらない
この愛を

最初の詩

これは
あなたに贈る 最初の詩^{うた}
これから
未来永劫 詠い続ける
億千万の内の
たった 一つの詩

詠い続けなければ 死んでしまうだろう
愚かな男の
あなたに贈る 最初の詩

愚かにも
未来永劫 詠い続けるのは
あなたに 一輪の花を 添えたいから

そう
これは
あなたに贈る 最初の詩
未来永劫 詠い続ける
愛の鼻歌

女神様

麗しい 女神様

私の目の前には
私の心の真ん中には
あなたがいる

私がどこに行こうとも
あなたがどこに行こうとも
私の目の前には
私の心の真ん中には
あなたがいる

麗しい 月が映る

初めて出会った時から
最期に別れる時まで
私の目の前には
私の心の真ん中には
あなたがいる

麗しい 女神様
ただ一人
あなたがいる

あなたとしたいこと

あなたとしたいことは
山ほどあって
その山はきっと 天まで届く

私がしたいことは
結局、
あなたを愛すること
山を動かすほどの愛で
あなたを愛すること

あなたとしたいことは
結局、
愛を分かち合うこと
天から頂いた愛を
あなたと
分かち合うこと

あなたとしたいことは
私がしたいこと
山ほど
愛を分かち合うこと
天まで届く
愛を
分かち合うこと

二つのメモリー

これから重ねる
あまたの記念日を
どれ一つ
忘れることはないだろう

新しい人生は
二つのメモリーに 記録される

あなたの記念日を
わたしの記念日を
どれ一つ
忘れることはないだろう

これから重ねる
あまたの記念日の
言葉を 掌を 唇を
愛を
どれ一つ
忘れることはないだろう

二つのメモリーに 記録される
二人の 新しい人生

言葉だけでは

言葉だけでは 伝えられない
もどかしさに 身悶えする

あなたの手を そっと
あなたの体を ぎゅっと
この言葉は
握ることも 抱くことも
出来ない
もどかしさに 身悶えする

あなたの手には この手を
あなたの体には この体を
この言葉は
宙を舞い
あなたの耳元に 降りてくる

言葉だけでは 伝えられない
この言葉 この体 この心
全身全霊で
あなたを愛する

風雨月光

風に揺れる二人
どんなに吹かれても…

雨に濡れる二人
どんなに打たれても…

二人の根は一つ
深く 天に根を張る
二人の根は一つ

月を仰ぐ二人
いつまでも…

光を仰ぐ二人
いつまでも…

深く 天に根を張る
二人の根は一つ
いつまでも…
いつまでも…

君のいない世界

君のいない世界は
色のない 香りのない
歌のない世界

君のいない世界は
霧と 影と 殻だけの世界

君のいない世界など
存在しない
君のいない世界には
僕も 存在しないのだから

君の色 君の香り 君の歌
君のいない世界など
存在しない

君の世界は
僕の世界
僕たち 二人の世界

虹と 光と 実りの
僕たち 二人の世界

真実の美

真実の美に

僕は 心打たれる

アイデア

あなたは確かに

存在したのだね

僕が求めてきた

アイデア

真実の美に

心洗われる

心酔わせる

アイデア

真実の美に

あなたを見る

僕は 真実の美に

あなたを見る

愛しのアイデア

運命

産声を上げる運命を
見守る二人

二人が出会う前から
運命は深く 結び付き
厚い 抱擁を交わしていた

口付けた運命は再び
当てもなく
歩いていくように見える

二人は
本当の運命を知らない
ただ 運命だけが知っている

微笑んで
抱き合う二人の間で
運命は 一つになる

そして
産声を上げる…

あなたのすべて

あなたの瞳
あなたの唇
あなたの指先
あなたの微笑み

人生を照らす光
春の香り

天使たちの声はもう 忘れた
あなたの言葉だけが 胸に

あなたの名前
あなたの涙
あなたの鼓動
あなたのいのち

人生もほころぶ
愛に満ちて

愛するあなたの
瞳 唇 指先 微笑み
名前 涙 鼓動 いのち

愛するあなたのすべてが
人生を照らす光
春の香り

愛するあなたのすべてが
愛に満ちて
人生もほころぶ

永遠に
愛するあなたの
人生もほころぶ

サウロたちよ

不法を働く者どもよ

嘲り笑う 憐れな姿よ

おまえたちの行いが

正義を証明している

おまえたちは サウロ

おまえたちの目の うろこを剥がそう

正義の鉄鎚は下る

おまえたちを救うため

正義の鉄鎚は下る

不法を働く者どもよ

右の頬を打たれ

左の頬も打たれよ

そして

おまえたちの目の うろこを剥がそう

不法を働く者どもよ

正義の鉄鎚を受け

救われよ

サウロたちよ

蝉たちの声

自由が欲しいのなら
おまえの その魂を差し出せ

悪魔たちの叫び声は
蝉たちの鳴き声と共に消える

彼らは 自分の思い通りになる
魂の抜け殻を 欲している

それはまるで
子供たちが 蝉の抜け殻を 探すように
魂の抜け殻を 欲している

無邪気にではなく
悪意に満ちて

魂の抜け殻に
悪意を注射する

暑い 暑い 夏の日

悪魔たちの叫び声は
蝉たちの鳴き声と共に消える

自由が欲しいのなら
おまえの その魂を差し出せ

この魂
おまえたちには
絶対に
渡さない

蝉たちの声は 鳴り止まない

天とあなたと この魂

天とあなたに捧げた この魂
何者も奪うことなど 出来ない

天とあなたに捧げた この魂
裂かれても焼かれても 構わない

天とあなたに祝福された この魂
永遠なる自由を謳歌する

天とあなたに祝福された この魂
悪魔の呪縛をも解き放つ

天とあなたと この魂
永遠なる自由を謳歌する

統一教会人の詩

<http://p.booklog.jp/book/26415>

著者 : tenshizin

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/tenshizin/profile>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26415>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26415>